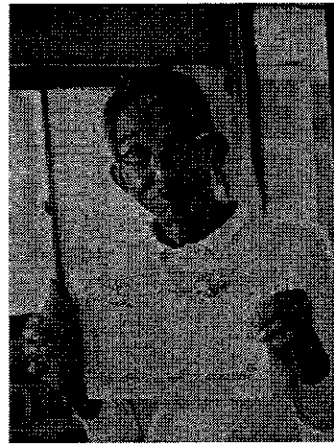


めだかの学校だより

平成 20 年 12 月 1 日
第 62 号
学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市 家田 529-20
TEL 0539-62-6691

校長訓話

第六十二回 校長 伊藤 英雄



「めだかの「訓話」？」

「エエッ…？ 俺…？？」ありえない事態に直面すると、いまだに思考が停止してしまいます。困ったことだ！平成6年6月第4回に入校。以来欠席は2回のみ。訓話は「される」ものと思ひこんでました。トホホッ。不思議なご縁で武井紀夫さんと出

合い、勧められるまま入校した「めだかの学校」。それは正しく未知との遭遇でした。

「私には無縁の世界と退散」、を思い留まったのは、私のありのままを温かく受け入れてくれたからです。会話が出来る！ 感じ会える人が居る！！この嬉しさは強烈でした。

興味をもてば次々と連鎖する未知の世界。交流の醍醐味。

こんなことを繰り返すうち、いつしか多くの温かな手助けをいただいていた。

最大の励みを頂いたのは平成7年12月21日に我が家が全焼・二人の焼死者が出たとき。

不在中に置かれていた、バラさんの名刺に走り書きしてあった「おれらは仲間デス」の一文。これが自棄から再建へ意識を変えさせる強烈な一撃となりました。

「一撃」と言えばもう一つ忘れ得ぬできごとが…

「食べてみてください」と大谷香代子メダカ生が差し出した小さな玉ね

ぎ・大根が、私の農業手法を転換させる事となった。

農協指導のもと、「より良いものをより多く」で一応中堅農家を自認していたときの事だ。

一見して人様にどうぞと言えない小ささ。正直とまどった。が…食べ比べてみてその甘さに驚いた。まるでフルーツ！！ごくありふれた種子だと言う。

何度かお邪魔して違いの要因を探った結論は栽培目的の違いだった。

野菜は正直だ。「より大きく・より多く」が私。美味しく食べたい一心で育てたのが大谷さん。目的の通りに育った。

気付かせてくれて有難う！！

めだかの学校は、私にとって恩人です。

「恩返し」のつもりで始めたのが、「給食手伝い」と「草刈り」。そして「都田川水源まつり」「菜の花プロジェクト」などの参加。

それには思いがけないオマケが…全部、楽しい交流会だ！と気付きました。

めだかの学校伝言板

——第62回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／伊藤英雄

教頭／池田タキ江

用務員／服部守孝

給食係／古橋利雄・村木謙弐・水野忠義・加藤直樹

間瀬亮太・石野省三・鈴木祐之・西川裕子

大谷香代子・尾上美智子・渡辺ミツ子(チーフ)

<学舎>静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山

みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成20年12月5日(金)6:20PMより

受付／原川桂子・内田貴久・斉藤昭(後見人)

<時間割>

～16期は『自助と共助』共に助け・助けられるとは～今回のテーマ「16年、めだかの学校ルネッサンス」

●1時間目歴史 牧野久子先生

「永らくお待たせしました、入校16年、裏方人生」

●2時間目社会 村木謙弐先生

「わが人生、いまだ懲りず、にやっとなつてまた挑戦」

●3時間目家庭科 豊田由美先生

「あれもやりたい、これもやりたい」

●給食の時間～年越しご膳？～

10:15 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■第6回「全国まちづくり

交流会IN足助

参加報告

メダカから今村メダカ・牧野メダカ・石野メダカ・榊原メダカ・中村メダカ・尾上メダカら7名が、朝8時、引佐から二台に分乗出発。途中開店前の「前嶋屋さん」でお土産をゲット。(朝食時に失礼しました) 10時、足助に到着、香嵐溪のプラプラ歩き。巴川沿いに緑の「もみじ」トンネルを、「紅葉の時間にも見たいね」と・・・途中忘れていた食欲と時間を気にしつつ「狸汁」で昼食。

13時、会場の「交流館」で受付。いるはいるは懐かしい顔。こだわりの面々、仲間とグループ。久しぶりの再会は「まるで童心」の顔が印象的でした。

開会の辞で小澤さんが「同窓会」にならない交流を希望していましたがこれは無理みたい・・・

榊原雄氏の「交流会を振り返って」の講演は疲れからか、みんな寝ていました。活動グループ報告では14名ほどがそれぞれ思いと内容を発表。

もちろんわが「メダカの学校」も榊原代表が、でも活動内容ではなく「雰囲気がい」と「い・き・し・ち・に」。でもまだまだ乗らない様子だった。(夜の交流会へ持ち越したよ)

シンボジウムは「ダイヤモンドの原石をどう見つけるか」コーディネーター市原実さん(奥山に参加)。ファシリテーターに関原宏昭さん。

事例発表は「開田高原の景観を生かした村づくり」大目登美雄氏。「奈良県下北村ツチノコ共和国で村おこし」野崎和生氏。「和歌山県湯浅町 感動を与える町づくり」三ツ村鈴子氏。「愛知県小原村 四季桜の里づくり」牛田朝見氏。

それぞれ活動の「原石」は景観であり、その土地が持っている価値に気付くことなどだったが、野崎さんの「人の心が原石」は印象に残る。

一番難しいことだが一番必要かつ重要なことだと感じました。

場所を「百年草」に移動し交流懇談会。ここでみんなの本音が飛び出してきた。

参加者は、「ヨロシ島観光協会」・「和歌山湯浅町」・「阿波勝浦井戸端会議」・「オホーソク寒気団」・「阿智村」・「西湖いやしの里根場」・「尾鷲市」・「二見ワイワイ元気塾」その他各行政マン、観光協会及び個人など総勢80名くらいかな。話は尽きないほど賑やかな交流会でした。

次回、第7回は「三重二見」、元気塾の皆さんが熱きピエールを。

そして第8回は「沖繩」との発表を最後に散会。メダカの一行は、熱い余韻に浸りながらここで帰路につきました。

報告は参加メダカ

■「菜の花プロジェクト」だより

11月の「いなさ湖」は真っ青な空。湖面には魚影、湖畔は紅葉と緑葉のハーモニー。清浄な空気と静寂。まさに最高の心浴の場だった。

去る10月13日(月) 体育の日。今年こそはこの「いなさ湖」を訪れた方が、一瞬でも「ワッ」と心を動かし、幸せな気持ちになってくれることを期待してプロジェクトの参加者が汗を流した。

軽トラに堆肥をいっぱい積んで春野から尾上メダカが。草刈りはマカシヨの伊藤メダカは磐田から。一人前の道具を揃えて磐田家田から榊原メダカ。ダンボールに菜の花の種をイッパイ詰め込んで地元石野メダカが。回りのやる気を醸し出してくれる地元の牧野メダカ。「おはようさん」と菊花の漬物持参、少々お疲れ気味の水島メダカ。鈴木正子メダカはお孫さんと息子夫婦の二家で二かかに到着、今年も参加してくれました。

一年たつた花壇は草だらけの荒れ放題。とにかくやろうと草を抜き、耕しながら石を拾い出す。堆肥をたっぷり撒いて整地。おしゃべりと汗と、思いおもしろい作業で一面の花壇が完成した。お孫さんのお手伝い?居るだけで楽しくなる、「いいねえ」願いを込めて、少々厚障襦にはなつたが屋前に完了。持参のお弁当を食べながら楽しい交歓のひとは最高!!

2005年に立ち上げ、多くの人が花壇づくりに参加して汗を流したが、徐々に実を結びつつあるのは嬉しいね。感謝しましょう。

この「いなさ湖」での「菜の花プロジェクト」を通して元気な皆さんとの交流が出来るのが最高の収穫だよ。さらに湖岸に遊びに来た人が評価してくればなおさら。そして水の有り難さと資源であることに気付いてくれたら・・・

参加メダカより

■第10回「遠州横須賀街道・

ちっちゃな文化展」

皆さんありがとございました。先日、10月24日(金) 26日(日) 3日間わたって開催された「ちっちゃな文化展」メダカ生徒はじめ、本当に大勢の皆さんにこま横いただきありがとございました。初日&最終日は雨にたたられたものの、いつもは静かな城下の町並みが道路が見えないくらいの人並みで埋まりました(笑) 鈴木真弓、耳塚信博、土屋誠一メダカなどは芸術家として出展、文化展を大いに盛り上げてくれました。また松本芳廣メダカたちは「そば打ち道場」で大忙し、町を歩けばメダカに当たる?伊藤英雄、石野省三、村松達雄、榊原幸雄、尾上美智子、古橋利雄メダカなど・・・なんと近藤庸平メダカは2日連続で遠路からの横須賀入り。「町並みと美の晴れ舞台」は人と人との出会いの場でもあるんですね。また来年も遠州横須賀でお会いしましょう!

de 鈴木武史メダカ

■第20回いなさ人形劇まつり

浜松市北区引佐町で、11月21日(金) 23日(日)の3日間、多目的研修センター1号館を会場に人形劇公演が行なわれます。今年も20回という記念すべき回でもあり、人形劇団むすび座(名古屋)、人形劇団京芸(京都)、糸あやつり人形劇団みのむし(尼崎)、人形劇団クラルテ(大阪)、人形劇団ひとみ座(川崎)、百鬼(とんどろ)(長野)、人形劇団ばんび(豊橋)など、実力派のプロジェクトを競い合います。もちろん地元の人形劇も。

問い合わせは、053・542・1111 1浜松市引佐地域自治センター地域振興課へ。

この人形劇まつりの立ち上げは、めだかの学校言いだしっぺの4人、伊藤茂男(故人)、平山豊(故人)、武井紀夫、榊原幸雄メダカらが大きく関わっています。現実行委員長は柴田宏祐元メダカです。ぜひお出掛けください!

■遠州森町発

「第7回町並みと蔵展」

秋の町並みと蔵展を11月15日(土)・16日(日)の2日間、森町の中心市街地を会場に行なわれた。

ご存知ですか?あの忠臣蔵の舞台となった吉良邸、討ち入りの時に掘越しに提灯をかかげ、赤穂浪士の応援をした隣家の土屋家の当主は森のお殿様「土屋主税」さんです。15日午後2時より、本町の西光寺で講演会もありました。にぎやかでした。

■豊岡東公民館講座のお知らせ

「食の安全」の信頼が損なわれつつある今、6回にわたって薬膳料理の基礎講座を行なう。

一回目は、1月17日(土)午後1時から3時30分、薬膳料理の基本を学ぶ。二回目は3月21日(土)午前9時から午後3時30分頃まで春の薬膳料理として敷地川周辺を摘み草し、その食材を調理実習する。夏(5月)、梅雨(6月)、秋(8月)、冬(11月)を予定。定員18人、資料代300円(6回分)食材費毎回100円。
※興味のある方はご連絡下さい。希望にそえない時はごめん。0539・62・6669 豊岡東公民館まで。

―学舎だより―

8月31日(日)に学舎の草刈りをしました。伊藤英雄、石野省三、深澤明男、服部守孝、徳増兼弘、尾上美智子、牧野久子、榊原幸雄メダカ。管理棟と厨房もキレイになんと管理棟板床のところが柱がゆらゆら。みれば土台部分が腐って白蟻さんの巢。危険と開校目前に服部、石野、伊藤の3メダカがガツシリと修繕してくれました。土台の柱と板は尾上メダカが用意してくれ

ました。感謝です。

10月6日、様子を見に草刈りを兼ねて学舎に行く。なんと学舎門のところにゴミがいつぱい捨てられている。マイツタ!その時は片づけられなかったが、10月15日(月)、いなさ湖の菜の花のタネまきの時、拾ったゴミと一緒に処分する。

「人・ひと・ヒト」だより

●浜松市の鈴木真弓メダカ。森林を活かしたアート展実行委員会・廃校再生プロジェクトの実行委員として、10月4日・10月10日まで天竜区の廃校になった旧竜川中学校で開催された「廃校からのアート・ルネッサンス Art」で活躍。「素晴らしい会でした」と。

●浜松市の中村明男メダカ。「浜松からの音楽シーン発信」をキーワードに「浜名湖フオークジャンボリー」「やらまいかミュージックフェスティバル」「浜松ジャスティ」など大車輪。好奇心いっぱいメダカだつて。

●浜松市のなんずら屋メダカこと古橋利雄メダカ。来年度浜松市で開催されるモザイクカルチャーに「浜松野菜の造形物」を出すことに。市長も喜んでいて、とか。どんな造形物ができるか楽しみです。モザイクカルチャー事務局には鈴木正子メダカのご主人が。世間は狭いねえ。

●浜松市雄踏町の藤田潤吉・久枝メダカ。富山で開催された全日本チンドン大会のアマチユア部門で見事取賞賞に。チンドン歴10年。みんなを笑わせて盛り上げて。来年3月には高校卒業予定。大学を目指す。こちらにもまた意気盛ん。フレイフレイ潤吉。久枝メダカさんの協力があればこそ。

●千葉県松戸市の滝川徹メダカ。この8

月に毎日新聞を定年退社だつて。浜松支局時代はめだかの学校生としても活躍。時間も出来たことでしょうか。是非再入学を!待ってるぞい。

●森町の村松達雄メダカ。11月1日から3日まで、森町中心街で開催された秋祭り「森のまつり」の責任者のひとりに。このまつり、14の祭典社が屋台の引き回しをし、二つの神社の「みこし渡御」と「みこし還御」、稚児の「稚児還し」を行う。祭りの宣伝に静岡新聞浜松支社を訪問。祭りが新聞に掲載されて一躍有名に。森町天宮神社の踊り手(?)でもあるとか。森町にも祭り男が。いいねえ。

●磐田市の井上啓子メダカと浜松市の高木初美メダカ。その法人ガラ紡愛好会の会長、副会長。12月7日(日)10時から浜名湖ガーデンパーク体験学習館で、和綿の収穫、縮くり体験、綿打ち体験、糸紡ぎ見学などの「収穫祭」を開く。遠州・三河で一世を風靡した紡績技術の「ガラ紡」の魅力いっぱい。遊びに来て!だつて。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。ホテルコンコルド浜松1Fオーブンギャラリで、12月30日から1月15日まで、切り絵の個展「田楽春の舞」を開く。坂部冬祭り、田峰田楽、川名ひよんどり、懐山おくないなどの作品を展示。

●掛川市の萩田博メダカ。めだかの学校15周年記念「チャレンジエンジン・ウオーク」を10月19日行う。弁天島駅前をスタートして浜北のあらたまの湯まで。10人全員無事ゴール。「めだかでは大谷洋介メダカがひとりと淋しかった」と。お疲れ様。ごめんね。

●浜松市の溝口久メダカ。10月19日磐田市立豊岡東公民館(館長榊原幸雄メダカ)で第5回黎明フォーラムで「なまかからみんなへ」と、基調講演。パネルディスカッ

ションでは、コーディネート役。地域の魅力を引き出す。鈴木正子メダカと渡辺三ツ子メダカ、協力者と一緒に「手打ちそば」を振舞う。会場には石野省三、伊藤英雄、服部守孝、深澤明男、川島安一ら10数人のメダカ生が。ありがと。くろうさまでした。

●浜松市の水島加寿代メダカ。三遠南信安心・安全、食体感!「本物」を知り、味わい、なんなら作っちゃおう!「会」をその法人三遠南信アミの「環で実施。第一回は農家レストラン」とんきい」さんを訪ね、田んぼ見学とソーセージ作り。第二回は三河の「奥三河食彩フェスタ」へ、そして第三回は南信州売木村へハザかけのお手伝いをして本物の食づくりを体験。「石野省三、伊藤英雄、服部守孝、加藤修一、鈴木正子、大橋町代、尾上美智子、耳塚信博、古田賢二郎メダカたちが応援してくださり感激でした!」と。

【新入生紹介】
浜松市の斯波千秋さん。視覚障害者のための支援施設「その法人 六星 ウイズ半田」の施設長。悩み、困っている人を笑顔にするのが好きと。
焼津市の原川桂子さん。大学院に参加。その後「めだか生」に。美術鑑賞、散策、料理、音楽、カラオケが好きと。めだかの学校にはみんなあるね。

浜松市引佐町の世田新造メダカ。大学院に参加して再入学。浜川の郵便局長さん。SSS学苑でマジックの講師をするほどの腕前。大学院の交流会で披露。びっくりしたなアもう。「何百種類のマジックの持ち駒を駆使して連続してどれだけ出来るか挑戦したい」だつて。

※ もっともっと紹介したかったです。が、今回はこれまで。

トピックス

■ひやーびっくり

武ちゃんの顔がテレビからとび出した！ある日のこと、テレビのチャンネルを変えたら武ちゃん（掛川市横須賀の鈴木武史メダカのこと）の顔が目の前に。「びっくりしたなア」と、浜松市引佐町の石野省三メダカ。SBSテレビ「静岡十八番みちづら」掛川、磐田編の番組だった。なんせ横須賀の老舗「笠井屋」さん。先月終わったばかりの「ちっちゃな文化展」にあっても存在感抜群のお店。昔懐かしい陶器類や小物類がいっぱい。そんな商品を照れながら説明していたとか。「誰です。ひやーかわいかった」なんて言うのは、ひとりお店を守っているのは母上様。「お祭りになるとほとんど家に寄りつかないですよ」だって。

■こちらはビックニュース国際版

民主党のバクラ・オバマ上院議員が次期米大統領に当選。黒人出身で初。11月4日の新聞、テレビも大騒ぎ。対岸のこととはいえ、なぜか変革の予感が……。

めだかも世界へ泳ぎ出そう！

いやあ、もうとび出している人も。今は帰国しているが所沢市の木村智子メダカ。シンガポールで植物園芸案内の国家資格をとって活躍してた。島田市の土屋誠一メダカはイタリアで開催された地蔵展に招待されて作品を出品。磐田市の濱田綾子メダカは招待されてフランスに。蚊帳アート作品をファッションショーで。岐阜県の長谷川政夫メダカはフランスで、日本の日手打ちそばを披露とか。浜松市の加茂光

廣メダカは、ベトナムやネパールなどへ草苗のルーツを訪ねてーと。岩本伴江さん、今度アメリカだよりを書きますか？……。

■事務局だより

立冬とはいえ、景色は秋本番になりつつある模様。ラジオからオバマ氏が当選の音が流れてくる。新聞には、世界のトヨタの本年度の営業利益が67%減だと言う。アメリカ発の金融危機は、大きなうねりとなって世界中をほんろつしている。

扱て、16期最初の第61回めだかの学校は、9月5日開校。校長濱田綾子、教頭太田民次、用務員徳増兼弘。進行役の太田教頭、鍛えあげた喉はさすが、鐘を打つのもおとほけ風の徳増用務員。どこかギョチなこともあるがよい雰囲気。16期は「自助と共助」。共に助け、助けられる心とはー。濱田校長「京都で和服のデザインをしていたが、磐田に戻って蚊帳に絵を書くようになった。嫁に行く娘の衣装をつくっている。10月10日・13日まで、フランスで開かれる展示会のファッションショーに招かれて作品を発表する」と話す。凄いなア。めだかも世界に。授業は30分2時限。一時間目鈴木武史メダカ「道を踏みはじめすぎた活気がなくなつた祭りをなんとかしよう」と若者たちが立ち上がり、各地の有名な祭りを視察、「祭りの何か」討論しあいながら、人脈を広げて、今のよう祭りを持つて来た」と、祭りに駆けた男たちの思いを語る。会場では二時間目の鈴木正士先生はまだ見えず「のばしてのばして」と合図を送りながら、自宅に電話を入れる。「今日は仕事の関係で下田に……。エツ、下田？。こりや無理だと急遽今村純子メダカにお願いする。熱海の梅園のことや、桃栗植えてハワイへ行くこうなど、今村さんが現役の

ころ関わりのあつた色々のことを話していただいた。事務局からは学舎の草刈り、清掃、修繕のこと、15年誌の支払いを現役生、OB、その他の多くの人達にご協力いただいたて済ませたことを報告。（※残部がありますので、「この人にはどうしても差し上げたい」と言う方がいましたら事務局までご連絡ください。給食の時間の私語飲食全て禁止の次回三役発表は、校長伊藤英雄、教頭池田タキ江、用務員服部守孝。校長、用務員はめだかの学校の背骨を支えてくれているおふたり。脇を固めてくれていた教頭は島田市の池田メダカ。楽しんでます。早速に「給食はスイートンでいこう」だって。

扱て、第62回は12月5日（金）。9月25日（木）午後七時から、元氣村「味里」で第62回の職員会議を開く。池田教頭は欠席だったが、テーマや授業内容を話し合う。いつもの如く、ああでもないこうでもないの結果は、テーマは「16年、めだかの学校ルネサンス」と言うことでもあり、一時間目は歴史「永らくお待たせしました、入校16年 裏方人生」・牧野久子先生。二時間目は、どんなに厳しい状況にあつてもいつもニコニコの村木謙次先生の社会「わが人生はまだ怒りず、にやと笑つてまた挑戦」。三時間目は、故佐野玲子、故メダカの長女で、無人だった実家に戻つて、「両親のやり残したブルベリ」農園を継承。子育てしながら色々なことに挑戦中の豊田由美先生の、家庭科「あれもやりたい、これもやりたい」に決まる。

■今回もお詫びとお礼と……

今回は特にひどい。11月1日の発行日になつても原稿をいっこうに書く気になれない。「本ちゃん、これ最後、至急打つてメールで馬淵ちゃんに送つて！」なので

ある。そんな私を支えてくれたのは、松本芳廣、石野省三、伊藤英雄、本島慎一郎、水島加寿代、間淵亮太のメダカさんたち。ありがとうございます。めだかの便りを心待ちの皆さん、ごめんなさい。お赦しを！

■第16期の継続と申し込みについて

第16期は、平成20年9月1日から21年8月31日。既に申し込み手続きが済んでいる生徒には申込書は同封していません。申込み手続きをしない生徒は、今回をもって名簿からはずれ自動退学となります。ご注意ください。入学希望者がありましたらご連絡ください。資料（めだかの学校だよりと、めだかの学校が全て分かる15年誌112000円）と、申込書を事務局から送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行日は平成21年2月1日、原稿の締切りは1月20日（火）です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、

「mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp」

間淵亮太090・50009・0986です。（メールの方は割付の関係もあるので一報を）。

■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691（FAX同じ）

※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。

